

平成 27 年度学校評価 自己評価書

2016 (平成 28 年) 3 月
学校法人高橋学園
千葉学芸高等学校

1. 学校教育目標

〈1〉 建学の精神と教育目標

建学の精神 「 創 造 」	
教育目標	1. 心の創造 強い精神力と思いやりの心 2. 智の創造 知性と判断力 3. 美の創造 感性と技芸

建学の精神

建学の精神は私立学校にとってその教育の最も根幹となる目標を示すものであり、すべての教育活動を建学の精神に位置づけて行われる。千葉学芸高等学校では、建学の精神「創造」のもと、美しい人類文化の創造にあたる実力を備えた人材の育成を図る教育活動を展開する。

教育目標

教育目標は、建学の精神「創造」の具現化のため、心・智・美の観点から獲得を期待する知識技能能力の内容を示す。

心の創造においては、物事への集中や忍耐のできる強い意志を備えつつ、優しい思いやりも併せ持つ人間性の涵養を図る。

智の創造において、知性を磨き、知識を蓄積するのは正しい判断のできる理性を備えるためである。

美の創造においては、美しいものを美しいと感じ、それを言葉や身体で美しく表現できる能力や技能の獲得を図る。

〈2〉 教職員および生徒の行動目標

教育目標の実現のため教職員は、以下の信条のもとに教育活動にあたる。

《職員の信条》

- (1) 建学の精神を生かし、日本人の特性と校風を高揚せん
- (2) 自己の誇りと責任を自覚し、全機能の発揮に当たらん
- (3) 親和・協力の心を基とし、内容の充実を求めん
- (4) 良き社会人たる素質を磨き、生徒の進路に万全を期せん

生徒は、以下の誓いのもとに学校生活の充実を期す。

《誓いの言葉》 (1) よい伝統と、よい校風をつくります (2) はつらつとした若さで学力・技能を磨きます (3) 愛敬の心を生活に表します

また、以下の学年目標に沿って自己の研鑽・向上を図る。

1 学年の目標	《自学》 私たち1年生は、次の目標をしっかりと実行して進みます。 (1) 高校生としての礼法・言語・動作を立派に築きます (2) 友情・協同の精神を発揮します (3) 自信の持てるまで努力いたします
2 学年の目標	《充実》 私たち2年生は、学校の中心となり、充実した学年を築きます。 (1) 自分の将来の方針をたて、目標達成のために根強い努力をします (2) 愛校・友情の精神を一日の生活に表します (3) 自信の持てる力と人格を築きます
3 学年の目標	《独立》 私たち3年生は、自分の将来の方針をたて、最高学年として人格を磨き、よい社会人となります。 (1) 全校のよき指導者となります (2) 社会にたつ一切の準備をいたします (3) 自己の誇りと責任を自覚し、協力貢献を実践します

〈3〉年度目標

以上を踏まえて、平成27年度の目標を以下のように設定した。

平成27年度学校目標 『コミュニケーションスキル』

One Up (ワンナップ) は「ひとつひとつスコアアップを図ること」。

千葉学芸高校として16年目。本年度のスローガンは「コミュニケーションスキル」として、自立しつつも他と協調して創造を目指すことのできる対人関係技能の向上を目指していくことを掲げた。

OECD（経済協力開発機構）加盟国を中心に検討された21世紀型スキルにも含まれることであるが、理解力、その場の空気を読む読解力、自らの意見を的確に表現する力など、コミュニケーションスキルは現代の社会生活に欠かせないものとなっている。コミュニケーションスキルの育成、上達のために、作文や芸術をはじめとする自己表現活動、学校行事やクラブ活動など多様な場面での触れ合い体験を充実するとともに、教育技術としてのコミュニケーションスキル育成研究を進める。

普通科公務員コースは3学年の授業が開始されてカリキュラムの完成年度を迎える。公務員試験の本番に臨むとともに、公務員養成教育について成果の評価・分析と改善のための課題抽出等も行っていきたい。

また、タブレット端末（iPad）の教育利用について本格的に着手するべく、まず教職員に端末を配布し、授業での活用と、校務分野での活用を開始する。

施設設備面では、iPadなどの携帯型情報端末を校内全域で利用できるように無線LAN設備の整備を行う。最初に整備した頃から数えて第4世代となるが、IEEE802.11ac規格の最新・高速な機器50台を配置し、どこからでも複数台の端末が快適に接続できるよう無線LANコントローラーを導入する。国際空港などで行われているのと同等の最高レベルの設備により、全国に先駆けて高度な情報化教育が展開可能となる。

校庭の拡張整備については、計画段階であるが、将来にわたって後悔のない配置とするべく慎重に計画を進める予定である。

上記目標に主眼をおきながら、人格形成・コミュニケーションの充実、学力向上・技能獲得向上・資格取得、進路開拓などを目指して教育学習活動にあたる。特に特性の伸長、人間性の育成、技能教育を重視し、色彩教育、情報教育、福祉教育、環境教育、国際教育などに関連する授業や学校行事、クラブ活動などの諸活動の展開・充実を期す。

2. 学校の概要

学校法人高橋学園 千葉学芸高等学校

〒283-0005 千葉県東金市田間 1999 番地

TEL 0475-52-1161

FAX 0475-52-1163

インターネット <http://www.cgh.ed.jp/>

電子メール info@cgh.ed.jp

平成 27 年度	学級数・生徒数	1 学年	4 学級	1 3 0 名
		2 学年	4 学級	1 2 5 名
		3 学年	4 学級	1 2 7 名
		全校	1 2 学級	3 8 2 名

学校の概要については、インターネットホームページで公表中。また、創立 120 周年記念誌等の冊子にて紹介している。

3. 各部門の活動内容・活動状況（学校要覧）

学校の特色、および以下の事項等については、平成 28 年度学校要覧（冊子全 74 頁、関係者向け 5 月刊行）に記載。

- ・学校施設・設備、校舎面積
- ・学校行事の内容
- ・生徒会活動の内容
- ・クラブ活動の内容
- ・教職員の担当学年、担当教科、校務分掌、授業の持ち時間数、所持免許状の種類
- ・校内研修の内容
- ・学習指導（授業時数、時間割、総合的な学習の時間の内容）
- ・学籍・出欠席統計
- ・生徒指導上の諸問題及びそれに対する学校の対処や指導の状況
- ・進路の状況
- ・安全管理・保健管理（保健安全、防犯対策、防災対策）
- ・各部門の予算執行状況
- ・父母の会活動状況、地域との連携等の状況

4. 自己評価（平成27年度）

A. 全般の評価

（1）評価

全般評価：良好

（2）課題と改善策

全般に関わる特に重要な課題として、生徒募集および学力の向上の2つを取り上げる。

次に、平成27年度のトピックとして、ロボットの教育活用の取り組みを述べる。

生徒募集状況の課題

平成27年度の新入学生徒数は対前年－10の減少であった。公立学校の入学定員について、山武地区では中学校卒業者数の減少と、累積的な過剰枠（＝私学の未充足枠）に対応して、本来は5学級程度の削減が必要であるのに、定員削減が1学級に留まったためである。広報担当職員の定年退職に伴う世代交代の過渡期ということもあり、若手の広報人材の育成を図る年でもあった。平成27年度は、結果として10名減の130名の入学予定者数であり、募集定員の46%に留まった。広報部を中心に生徒募集の努力をしたが、結果としては昨年度の－2に続く減少であり、努力不足であったと考えられる。一方、学業やクラブ活動で優秀な生徒も入学しており、裾野の拡大を図るうえでも頼もしい存在となっている。

平成28年度の生徒募集では、一転して173名の入学で、+43の増加をみた。印旛地区中学校長を経験した新たな広報担当職員を迎え、昨年度に経験を積んだ若手広報人材も熱心に活動した成果であると考えられる。特に千葉市で+20など、人口増加地域からの志願者入学者増が好材料となった。

本校の在学生の教育向上・進路状況は良好であり、困難な生徒募集状況は近隣公立学校定員過剰・公私学費格差等の外部要因によるものが主であると考えられる。公立高校の募集人員増減により直接左右される状況は脱していく必要があり、受験生から選ばれるための魅力を一層高めていく必要がある。生徒募集の拡大のためには、内容の充実、広報・PRの工夫等の自己対処方策の充実発展により改善を図っており、授業料減免制度や奨学金制度の周知により私学を敬遠する意識の解消に努めている。その結果、新入生では約6割が授業料減免制度を利用するなど、周知効果は高まっており、公私学費格差を乗り越える状況が生まれつつある。

今後は、環境悪化にも耐える体質改善を図るとともに、一層の広報努力によって生徒獲得を展開しなければならない。中学校教員も世代交代しており、本校ならではの数々の優れた特質について、中学校現場で十分には知られていないことを強く感じるようになった。より丁寧でわかりやすい広報が必要であり、広報活動の質的量的改善も図っていく必要がある。

また、県教委による高等学校再編計画の動向を注視しながら、展望をもって取り組んでいきたい。

学力の向上

21年度の年間目標に言語表現力の向上を掲げて以来、引き続き国語科および学年会による漢字学

習指導、作文指導、全校漢字学力テストの複数実施、校内漢字検定の実施を行っている。常用漢字の書き取りについて、個々の生徒に於いて繰り返しの学習成果は着実に現れ、作文を書かせてもひらがなばかりでほとんど漢字が書けなかった生徒が、適切な漢字かな交じりで文章を書けるようになるなどの効果が生まれている。基礎学力を身に付けたことに自信を深めた生徒が他の学習に意欲的に取り組む姿もみられ、教師による学習の働きかけと継続的な指導が奏功している。26年度に創設した校内文芸コンテストも第2回を迎え、年間を通じて授業課題などで提出された作文や文芸作品から選ばれた優秀作品も質的に向上をみた。

学力上位者については、フレッシュタイムワークと称する朝夕の特別学習講座に加え、eラーニングビデオ教材を活用して特別進学に対応する学習に取り組み学力向上を図った。城西国際大学・東京理科大学・千葉工業大学をはじめ多数の指定校推薦枠を得ているほか、大学入試センター試験を経て国立大学(千葉大学)に挑戦するレベルの生徒も現れており、進学コース設置の効果が現れつつある。本年度は特に看護学部・看護学校への進学が多かった。理学療法を専攻するものもあり、医療福祉系に伸びがみられるので、推薦制度も活用しながら今後も拡大を図りたい。また中央大学にスポーツ推薦（ゴルフ）で進学があった。

ロボットの教育活用

2015年6月にソフトバンク社のヒューマノイド・ロボット「Pepper」が一般発売となり、本校では9月に導入した。エレベーターホールに常設し、愛嬌のある言葉や仕草で、生徒や訪問客を和ませている。

本校は、情報教育に長けていることもあり、かねてよりコンピュータ部を中心に教材としてのロボットの導入や研究を行ってきたが、Pepper導入を機に、本格的にロボットの教育活用研究を展開することを志している。ロボットの教育活用において、基盤となる情報技術に関して情報コースでの学びと直結するのは言うまでもないが、他のコースでの学びとの連携も視野に入れている。福祉分野での活用について福祉コースの生徒とともに研究したい。ダンスの振付など、パフォーマンスやエンターテインメント分野の活用には芸能コースの生徒が持つノウハウが役立つだろう。公務員コースでは、公共分野での活用を考えてみたい。ロボット活用の未来について考える教材としてPepperを役立てていきたい。

B. 部門ごとの評価

（学校要覧に記載）

5. 学校関係者評価

学校運営会議開催（6月）。

保護者（5月）および生徒（2月～3月）にアンケートを実施した。

以 上